

18. 教育研究開発委員会

鈴木 康之（委員長・岐阜大学医学教育開発研究センター）

より良い医学・医療者教育を行うには、教育改善のための地道な研究活動が必要である。教育理論や方法は不変ではなく、社会的ニーズを踏まえて現状や問題点を明らかにし、新たな理論を構築し、教育方法を開発していくことが求められる。教育研究開発委員会では、研究成果を世界に向けて発信し、世界の医学教育の改善にも貢献できるよう、以下の活動を展開している。

1. 医学教育研究メンタリングプログラム

学会員、特に若手研究者の医学教育研究活動の促進を目的として「医学教育研究メンタリングプログラム」を第44回・第45回日本医学教育学会大会（2012年慶應義塾大学、2013年千葉大学）において企画実施した。大会ホームページを通じて研究に関心のある学会員（メンティー）が、教育研究の経験豊富な他施設の学会員（メンター）と一対一で、研究テーマ、研究方法、キャリア形成などについて相談する機会を設けた。

2. 医学教育研究ワークショップ（第8回、第9回）

教育研究の裾野を広げ、活性化することを目的として、若手研究者が各自の研究アイデアを持ち寄り、具体的なリサーチクエスチョンを作り上げるワークショップを開催した。

第8回「医学教育研究ははじめの一步：リサーチクエスチョンを立ててみよう」（2012年10月27-28日、岐阜大学）

第9回「医療教育研究のスタートを洗練する」（2013年11月2-3日、岐阜大学）

3. 第45回日本医学教育学会パネルディスカッション「教育の質の改善を目指して、医学教育の根拠を使う、創る」

委員会メンバーが中心となって、根拠に基づく最善の医学教育を推進するために、エビデンスの利用者と生産者の立場から議論した。

副委員長：大滝純司、委員：石川ひろの、尾原晴雄、錦織宏、向原圭、伊藤俊之、西城卓也

19. 大学院教育委員会

田中 雄二郎（委員長・東京医科歯科大学医学部）

近年、臨床医の大学院進学率の低下が問題となっている。また、諸外国と比較してわが国の臨床研究論文の質、量の低下が指摘されている。こ

のような背景のもと、大学院教育委員会は、日本医学教育学会の教育開発領域の各種委員会の一つとして設けられた。平成21年1月から2年間、